



日課は瞑想・逆立ち・法螺貝

# 鎌田東二教授

本学教職員のプライイ。頂上では必ず笛を  
ベートに迫る連載企画 奏で、3度バック転を  
『教授の休日』第5回。すると話した。また、  
今回は上智大学グリー 毎朝瞑想や逆立ちを行  
フケア研究所特任教うほか、30種類以上に  
授、及び京都大学名誉も及ぶ法螺貝、岩笛、  
教授の鎌田東二教授に 太鼓の演奏も日課だと  
話を聞いた。

自然への造詣が深もある法螺貝は、日  
く、聖地巡礼の経験本、ブータン、チベッ  
もある鎌田教授の休 ト、ニュージール  
日は、いわば「儀式」などあらゆる産地のも  
だ。よく訪れる場所と のを所有しているそう  
して京都府と滋賀県に だ。「他者から見れば  
またがる比叡山を挙げ 風変わりな習慣だろう  
た。「最初に登ったのが、私にとってこうし  
は10年ほど前だが、通た儀式は呼吸や食事と  
算505回登頂してい 同じ。運動しないと気  
持ち悪く感じる人のよる。  
うに、自分を律するた  
めに必要な行為」と説  
明する。

出身地の徳島県阿南  
市桑野町は自然豊かな  
町だ。鎌田教授は、幼  
少期に抱いた自然を畏  
れる感情こそ、儀式が  
日常である理由だと分  
析する。文学作品や神  
話を好んだ一方、「親  
に怒られるとよく裏山  
に籠った。夜になって  
鮮明に聴こえてくる風  
の音や動物の鳴き声に  
は、子どもながら畏怖  
の念を覚えた。こうし  
た体験が宗教学や哲学  
を学び、比叡山に登る  
現在につながったので  
は」と語った。

また、17歳で訪れた  
日本神話の聖地とされ  
る宮崎県・青島は鎌田  
教授にとつて特に大き  
な意味を持つ。青島は  
「鬼の洗濯岩」の異名  
を持つギザギザの岩礁  
に囲まれており「一歩  
足を踏み入れた時から  
霧囲気が違った」と鎌  
田教授。それまで本の  
中のものであった神話  
の世界が現実で祭られて  
いる光景に時空が歪ん  
で繋がったように感じ  
た。読書や武道に専心  
する学生だったが、大  
転換が起きたと回顧す

夢で受けた神託は今で  
も覚えている」と話す。

鎌田教授はその他、  
作家や詩人としての顔  
を持ち、さらに神職の  
資格を活かして「神道  
ソングライター」とし  
ても活動している。楽  
曲制作や楽器演奏も休  
日の過ごし方の一つと  
のこと。今年6月には  
青島で得た感覚も詠み  
込んだという第一詩集  
『常世の時軸（ときよ  
のときじく）』（思潮社）  
を出版している。



『鎮魂能舞 石峰』を奉納上演する鎌田教授（写真左）

（本間歩）